

琉球大学学術リポジトリ

植物ウイルス病について (1)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 与那覇, 哲義, Yonaha, Tetsuyoshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20616

問題 2. 予算と熟練職員が不十分である。

- 対策 ① 報道施設を高度に利用する。
- ② 教育機関、特に農科大学に農業情報のコースを提供するよう勧告する。
- ③ 有能な報道人の能力を高度に利用する。
- ④ 情報職員に対して進んだ訓練補習科を開設する
- ⑤ 普及プログラムを維持するための予算を決定する調査を十分に行う。
- ⑥ 普及予算の計画には情報職員も参加せしめる。

問題 3. 効果的な活動を実施するために他の農業機関と提携する必要がある。

- 対策 ① 情報事業を農林省又は農務課内に統一する。
- ② 農業団体の代表を以って情報委員会を組織し、定期的に会合を開く。
- ③ すべての専門的な情報は発表する前に関係専門家の点検をうける。
- ④ 情報資料の準備、作製、配布の責任を明確にするために専門機関と情報室との間に覚書を締結する。
- ⑤ 情報資料作製の優先順については両者の話し合い

で決める。

- ⑥ 出版物編集委員会を設置する。

問題 4. 利用された資料の適合と適正な評価をするために農民や現場指導者から結果を採り集める必要がある

- 対策 ① 情報資料は事前テストをしてから配布する。
- ② 情報資料に質問用紙を添付してその利用をはかる。

問題 5. 情報資料の効果を決定する適当な評価方法が少ない。

- 対策 ① 情報資料に添付された質問用紙を利用する
- ② 普及員をして直接農民に面接させ、情報資料について現場調査を行わしめる。

③ 訓練された情報評価委員会を設置して現場調査や適切な評価方法を助言せしめる。

問題 6. 情報機関が散在している上に、十分な設備と職員をもっていない更に提携も行われていない。

- 対策 ① 各事報機関を統一し、情報事業の施設や設備を共同負担してその充実をはかる。 (古謝 瑞 幸)

植物ウイルス病について (1)

Virus(ウイルス)はこれまでウィールス、ヴィールス、ピールス、ヴァイラス、バイラス、病毒および口過性原体などさまざまな記法があつて混乱したが、日本ウイルス学会は1955年に「ウイルス」を公定用語とした。

植物ウイルス病の発生は多く、被害甚大にもかかわらず、今日まだ適確な治療法が見出されていないためその防除はもっぱら予防のみに限られている状態である。

近年沖縄においてもサツマイモの天狗巣病、ウリ類のモザイク病、パパヤのモザイク病、タバコ、トマトのモザイク病などの発生が年々増え、特にサツマイモの天狗巣病の被害は莫大、またこの頃、北部の稲作地ではイネの黄萎病がまん延して人々の関心は高まり、協同防除が各地で行われているのは喜ばしい現象である。ここでは病原ウイルスについて簡単に述べてみましょう。

1. ウィルス

A ウィルスとはどんなものか

もともと Virus という言葉はラテン語で毒または毒液を意味し、例えば蛇毒、狂犬の唾液などである。その後、伝染性の病害の病原不明のものか漠然と Virus と呼ばれ、口過性ウイルスがその例である。しかし近代的意味でのウイルスの概念は次の3つにまとめられる。

- (1) 超光学顕微鏡的である。
- (2) 特異な生物細胞に導入される。
- (3) 生細胞内部においてのみ繁殖することができる。
- この3つの条件の中、1つでも欠けるとウイルスとは言えません。

B ウィルスの大きさと形

もっとも小さい細菌(藍菌750ミリミクロン)よりも小さく、ヘモグロビン分子より大きい存在である。

植物ウイルスの大きさと形

ウイルス	大きさ (ミリミクロン)	形
タバコモザイク	300 × 15	桿 状
ジャガイモ Y	756 × 12	糸 状
ジャガイモ黄化萎縮	110	長方形
キウリモザイク	35	球 形

(注) ミリミクロン=1/100万mm

(つづく)

(与那覇 哲 義)